

一般の焼却炉で 放射性物質や 毒物のくついた震災ガレキを 燃やして本当に大丈夫！？

富山地区広域圏クリーンセンター、高岡市環境クリーン工場、
新川広域圏ごみ焼却施設で、震災ガレキを燃やす計画がある
ことをご存知ですか？

今この問題をめぐって、住民自身が判断できる知識が必要になっています。

焼却問題を追及する環境ジャーナリスト・青木泰さんが「震災
ガレキ安全神話」に鋭く切り込みます。

子どもたちの未来を守るために一緒に考えましょう。



子どもたちの未来を守るために - 放射能汚染ガレキを考える **青木泰 講演会**

4/29(日) 14:00～(開場 13:30)

富山駅前CIC 3F 学習室1

富山市新富町1-2-3 富山ステーションフロントCiC
定員：130名

4/29(日) 18:30～(開場 18:00)

立山町民会館（3階展示室）

中新川郡立山町前沢 2385 番地
定員：80名

■ 参加費：資料代として **500円**

■ 座席予約：満席に備えて座席の確保をお勧めします。

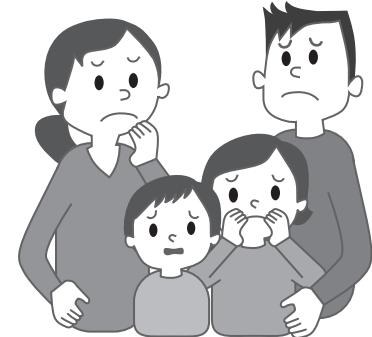
■ お問い合わせ先：原発いらない－汚染ガレキを考える会 電話：**080-3743-3546** (月～金 9:00～18:00)
メール：nosika@softbank.ne.jp【氏名、電話番号、参加会場（富山か立山町）、参加人数をご記入ください。】

主催：原発いらない－汚染ガレキを考える会

「ガレキを受け入れることが被災地の復興を早める」と大キャンペーンを張る政府、マスコミ。
「放射性セシウム濃度が基準値(1キロあたり100ベクレル)以下のガレキを、富山県内で受け入れ処理する」とする県。
基準値以下なら安全だとしています

国や行政から独立した見解を知って、私たちが自分自身で判断できる知識を身につける必要があるのではないでしょうか？

- 国はガレキの汚染度について調査を行ったの？
- 放射能の危険性は？低線量なら健康被害はないの？
- 富山の米、野菜、魚が汚染されないか？
- 焼却したら空氣中に放射性物質を放出することにならないか？
- 焼却炉は放射性物質を除去できるの？
- 高濃度に汚染された灰が残らないか？その処理は？
- ガレキの放射線量測定や、焼却実験はどうやるの？住民が判断できるの？
- 「ガレキにアスベストやヒ素が含まれていて健康被害がでるおそれがある」というニュースを見たけど検査はするの？
- 国の復興施策は現地の状況に合っているの？
- 被災地にガレキ処理施設を作ったほうが現地の雇用につながるのでは？



地元紙やテレビでは報じられない事実がたくさんあります！

静岡県島田市・試験焼却の虚実

週間金曜日 2012年3月30日発行 (889号) 「亡国の日本列島 放射能汚染」青木泰氏の記事より

新聞が賞賛している島田市の試験焼却の実態は大きく違う。
「試験焼却」の結果、煙突からの煙は「ND(不検出)」と報告されているが、これは「0(ゼロ)」ではない。測定器が計測できる値以下であったということでしかない。焼却炉の排ガス流量は膨大な値であり、島田市の場合一時間あたり約二万立方メートルと報告されている。排ガスの流量から考えると、**一日約四十万ベクレルのセシウムが環境中に排出される**。島田市の試験焼却データ

からは、バグフィルターの捕捉率は六十～八十%という報告もある。…(中略)

また最終処分場の浸出水を処理した後の放流水を受ける土壤から三百ベクレル/kgが地質学の専門家大石貞男氏によって検出された。汚染茶の焼却による影響ではないかとの地元での指摘もある。大井川を汚染し、河川敷伝いにつながっている**地元の上水道取水口に影響を与える可能性**もある。

「復興に向けて 首長に聞く」

2012年2月29日付 朝日新聞マイタウン岩手より

岩手県岩水町長の伊達勝身さんは「現場からは納得できないことが多い。がれき処理もそうだ。あと2年で片付けるという政府の公約が危ぶまれているというが、無理して早く片付けなくてはいけないんだろうか。山にしておいて10年、20年かけて片付けた方が地元に金が落ち、雇用も発生する。

もともと使ってない土地がいっぱいあり、処理されなくても困らないのに、税金を青天井に使って全国に運び出す必要がどこにあるのか。」と語っている。

札幌市「がれき拒否」、国に回答

2012年4月5日付 朝日新聞より

札幌市の上田文雄市長の回答は「受け入れない」だった。4日、環境省あてに送った回答書では、「国から示されている基準や指針では、安全の証明が得られない」などとして、国が示した基準に疑問を投げかけている。

上田市長は、「放射性廃棄物は基本的に拡散させない」という考え方を取っており、国が示した基準にも疑問を投げかけている。



「がれきは時間で解決できるが、放射性物質は時間で解決できない」



焼却問題を追及する環境ジャーナリスト・青木泰さんが「震災ガレキ安全神話」に鋭く切り込みます。ぜひご来場ください！

【青木泰プロフィール】

ごみ問題を中心に環境を考える環境ジャーナリスト。時計会社の研究所に勤め、発明の仕事を行う傍らで自然保護・ごみ問題に取り組む。早期定年退職後、中小企業の技術顧問に携わる。3.11後は全国各地にて災害廃棄物焼却についての学習会や講演会を開催。著書：「空気と食べ物の放射能汚染」2012年1月25日発行（リサイクル文化社）